

令和5年度 兵庫県公立高等学校PTA連合会研究大会

ーPTCA 全県研究大会ー へ行ってきました

令和5年12月2日（土）、校長先生と本部役員6名で淡路市立しづかホールにて開催の兵庫県立高等学校PTA連合研究大会へ行ってきました。

当日は天気に恵まれ、道中の淡路島の海と景色に日頃の疲れも癒されました。

今回のテーマは「PTA活動の活性化と家庭・学校・地域の連携強化」です。

今回担当校になった夢野台高校・伊丹高校・柏原高校さんの、PTAと学校と地域の繋がり活動の発表と、メンタルプロデューサー川谷 潤太氏の講演がありましたので、紹介させていただきます。



～担当校による活動発表～

夢野台高校さん

地域清掃や、地域の方も招いた子育ての講演会に50人が集まり、お互いの交流もはかることができたそうです。生徒が施設へボランティアとして参加し、利用者の方と楽しい時間を過ごしたり、警察署の交通安全イベントに参加されていました。

伊丹高校さん

地域清掃に加え、自衛隊の駐屯地が隣接する場所に学校があり避難場所に指定されているため、夏休みに防災キャンプを実施し、自衛隊に炊き出しの実演をお願いして、地域の方と共に段ボールベットを作るなど、いざという時に行動できる研修をされていました。

柏原高校さん

ちょこっとボランティア（ちょボラ）と呼ばれる生徒中心のボランティアの主導のもと、多くの生徒が自主的に参加し、地域清掃に参加したり、消防署、市役所、地域自治会の協力のもと、避難防災訓練に参加することで、地域一体となった防災意識の向上につながったそうです。また、地域の方や市内の高校にも呼びかけ、子供の自己肯定を高めるための講演会を開催したり、年2回通学路に立って生徒に声をかける通学指導、地域の夏祭りの巡回指導もされているそうです。

このように、各学校それぞれ地域の方と繋がったPTCA『Parent(親)Teacher(先生)Community(地域)Association(会)』活動をされていました。また、各学校のPTA活動内容も大変興味深く参考になりました。

北須磨高校でも、年に3回の通学路清掃を生徒と共にしています。

また、ユニクロ・GUの企画、子供服を必要とする世界の子供達へ服を届ける「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加。生徒会と1年の委員が中心で活動しており、校門前にボックスを設置。地域の方からも寄付を受け付け、たくさんの善意が集まりました。

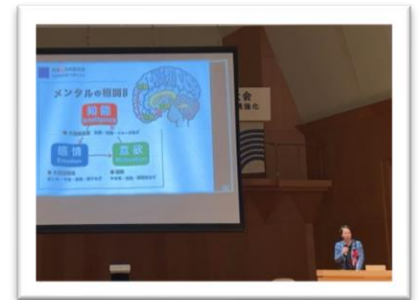
学校と地域の方との繋がりをどの高校でも大切にしており、交流をもつことで、お互い何かあった時に助け合える環境作りが大切だと改めて感じました。

～記念講演～

「潜在能力の高め方～答えのない未来を生き抜く知恵とコツ～」では、神戸市出身で有名アスリートやスポーツチームへのメンタル指導、子ども・保護者・教員向けの教育講演で依頼が殺到する、川谷 潤太氏 が客席を楽しく巻き込みながら、大変興味深い講演をされました。

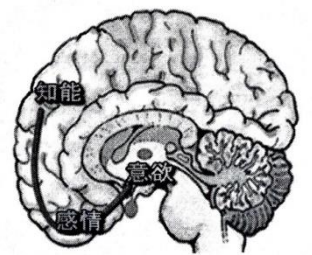
子どものやる気をどう引き出すか

- ・まずは意識を変えることから、が重要。
- ・意識によって体はコントロールされている。行動より意識。
- ・意識さえ変われば行動できる。ただこれが難しい。ではどう変えるか。



知能をいかにのばすか

- ・感情が多くのカギを握っている。ドーパミン（楽しい）が出ている時しか脳神経細胞はつながらない。ノルアドレナリン（イライラ）・アドレナリン（心配）が出ていると脳神経細胞はつながらない。
- ・プラスの感情に意識をむけるとドーパミンがたくさん出る。
この場合の楽しい＝面白いではなく、熱中している・夢中になっている感覚。
- ・マイナスをプラスに変える。現在の教育はマイナスの方に意識を向けさせる教育が主流になっている。



国数社理英の中で英語が苦手な子が英語を頑張らなさいと言われる。受験対策としてはその通りだが、マイナスに意識を向けすぎて結果的に勉強自体が嫌いになってしまう。数学が得意だったら、それをがんがん伸ばすことによりプラス感情が大きくなりマイナスが消える。

事例）20年かけて研究した結果、実際に数学が得意な子がさらに成績を伸ばしたところ、勉強が好きになり、100%の確率で英語の成績も伸びた。プラスを大きくする習慣を身につけた。

では、どうすればプラスに向くか。

モチベーションをあげる

① 先手力：意識を未来に向ける。

・受験に向かっていく子供達へ、「合格すること」だけでなく、「その大学に行ってどんな研究をしたいか、大学に行ってどんなバイトをしたいか、どんな部活やサークルに入りたいか」など、早い段階でその先の未来のイメージを持たせる事が重要。どこをピークにもっていくか。だから今頑張るんだということ。

② 集中力を高める

- ・集中すべき事は外側にある⇒例）授業中は先生の話聞く、運転中は歩行者や標識などを見る。
- ・集中とは今すべき「現実」と「心」が一致している状態。
- ・一点に集中することで、意識が外にむき集中しやすくなる方法がある。

【ボール積み法】テニスボールを縦に二つ積む集中法。

毎日授業が始まる前の3分間実施したクラスがあった。このクラスは1か月後平均点が20点上がった。

【一点凝視法】テスト前、シャーペンの芯を3～5秒見ることで雑念がなくなり、計算ミスが減る。

- ・能力が伸び悩んでる人、ミスが続く人は逆向きに意識が働き、内向的になっている（内向性）。

この場合の内向性とは、性格ではなく、何かをしているときの意識の向き。それを外向きに変えるのが重要。

その他に、整理整頓や心を込めて掃除する習慣を身に付けるといいそうです。

実際に子供達に聞いてもらいたい内容が盛り沢山で、保護者としても大変勉強になりました。